

ゆきはな



山形大学附属特別支援学校
学校だより No. 151
令和6年3月1日(金)発行

「令和6年 能登半島地震から」

校長 川田 栄治

令和6年1月1日、楽しいお正月、16時10分。みなさんは、どこで何をしていたでしょうか。

ちょうど私はショッピングモールにいて、自分を含めた大勢のお客さんのスマートフォンから一斉に緊急地震速報のけたたましい音が鳴り響くと同時にすべてのものが揺れ始めました。揺れはおさまったものの、東日本大震災のことが思い出され、ただ事ではないことはすぐに予想できました。その後については、児童生徒の皆さんとその御家族、先生方の安否をメールを通して確認させていただきました。全員何事もなく無事を確認でき、ほっとしたところでした。

さて、石川県の能登半島には七尾特別支援学校があります。そして、輪島市には輪島分校、珠洲市には珠洲分校があります。3校とも地割れや地盤沈下、校舎にも甚大な被害が生じ、2つの分校は避難所としても活用されたそうです。避難生活が続き、未だに学校に来ることができない子どもたちも多いそうですが、震災から1ヶ月が過ぎ、分校も含めようやく3学期の始業式が迎えられたそうです。

山形県から第1陣の災害救急援助隊で能登半島に派遣された方から聞いた話では、地震で受けた被害はもちろんですが、「水」と「トイレ」が大変だったそうです。テレビでもトイレの不便さは報道されていましたが、実際は想像を絶するほどの不衛生さで、誰もが食事や水分を控え、トイレを我慢してしまう状態だったそうです。一刻も早い、断水の解消と衛生的な生活が確保されることを願うばかりです。

私は今回の能登半島地震で、あらためて予想を超える自然災害の恐ろしさを思い知らされるとともに、しっかりとした安全計画の立案とそのアップデートの必要性について考えさせられました。本校でも毎年、子どもたちの安全を守るために安全計画を立案し、年度当初に先生方に周知を図っています。その中でより実際に即した避難訓練も計画的に実施しています。被災後の対応についても準備や訓練を行っています。

今回の震災では、特に、「水」と「トイレ」の大切さがクローズアップされました。「命を守る行動」を第一としながらも、本校でもこれらを教訓とし、安全計画の見直しの中で緊急時の「水」と「トイレ」について確認し、対応を考えていきたいと思えます。保護者の皆様にも備蓄リュックの準備や緊急時のお迎え等、御協力いただくことがたくさんあります。災害時、緊急時には保護者の皆様と学校の連携は不可欠です。子どもたちの安全・安心な生活のため今後ともよろしく願いいたします。

小学部



～ 食に関する指導 ～

今年度の食に関する指導では、「山形ワイヴァンズ応援給食」を実施しました。バスケットボールチームのワイヴァンズから選手2名が来校し、栄養教諭とよく噛んで食べることや姿勢よく食べることなどの食育クイズをしました。

体育館でのレクリエーションも行い、シュートやドリブルなどをして体を動かして楽しみました。また、給食も一緒に食べて、バスケットボールや食に関する興味を広げる時間になりました。

～ 作業学習 ～

作業学習では、3学期も布グループとクラフトグループに分かれて製品作りに取り組みました。どのグループも、「お客様が喜んでくれるように丁寧に製品を作ること」「自分の仕事に最後まで取り組むこと」「返事や報告をすること」「友達と協力して製品作りをすること」を大切にしながら学習しました。また、ふれあいバザーを実施し、2学期のバザーでは保護者の方へ販売し、3学期は放課後等デイサービスの方対象に注文販売を行いました。生徒たちは、販売活動を通してたくさんのお客様との関わりを広げる機会となりました。

中学部



高等部



～ 山辺高校との交流 ～

山辺高校福祉科の2年生14名を本校に迎え、交流しました。当日まで学習紹介やレクリエーションを考える中で、どうしたら楽しんでくれるか、どのような活動内容だと仲良くなれるかなどについて、それぞれの班で話し合いを進めてきました。

当日は、お互いに考えてきたレクリエーションにペアの友達と一緒に取り組みました。顔を寄せ合いながら相談したり、声を掛け合って応援したりするなど、協力しながら笑顔で活動する姿がたくさん見られました。